

男子だけ全裸になったプールの授業

水泳の授業が始まる前のプールサイドは、夏の強い陽光に照らされ、水面がダイヤモンドのようにきらめいていた。空気は湿気を含み、プールの塩素の匂いが漂う中、今日は何かが違う雰囲気漂っていた。普段ならば楽しみにしている水泳の時間でも、今日は生徒たちの間に緊張とざわめきが広がっていた。

先生は教壇に立つようにプールサイドに立ち、「今日は特別な授業だ。男子は全裸で泳いでもらう。タイムを正確に測りたいからだ。」と宣言した。その瞬間、プールサイドは静まり返り、次の瞬間、混乱が始まった。

男子たちからは「マジかよ...」「嘘だろ...」の聲が漏れる。拓哉は目を丸くし、「本当に？」と先生に確認しようとするが、言葉が出ない。「これ、冗談じゃないよな？」とつぶやく。青くなった顔から、視線が右往左往しながら

も、何か言おうとするが、喉が詰まって声が出ない。和希は「どうしよう...」と呟き、驚きで顔が引きつる。「最悪だ、女子にちんこ見られるのかよ...」と小声で言うが、その声は震えている。龍太は「やだよ、絶対に...」と震え声で言う。目は大きく見開かれ、まるで逃げ出したいかのように周りを見回すが、逃げ場はない。健太は「まあ、仕方ないか」と強がりつつも、内心では動揺し、顔からは緊張が隠せない。

女子たちの反応も多岐にわたった。美咲は「え！男子全部脱ぐの？」と顔は少し赤い。「ちょっと恥ずかしい...」とささやく。彼女は顔を赤らめ、視線を落とす。あやは「ええ...」と視線を逸らす。理恵は微妙な笑みを浮かべ、女子たちに向かって「ラッキーじゃん、おちんちん見られるよ？」とささやく。「おちんちんマジで見れちゃうじゃん」と目を輝かせ、その視線はすでに男子たちに向けられている。ひかりは「見ちゃダメ、見ちゃダメ」と自分に言い聞

かせるが、好奇心が抑えられない。さくらも「男子かわいそう…」と心の中でつぶやく。

学級委員の花香は、真面目な表情で先生の説明を聞いていたが、内心では男子たちが全裸になるという事実にはドキドキしていた。彼女の視線は、特に拓哉の方向にちらりと向かい、その存在に気づかれぬよう注意深く観察する。かわいい花香は男子たちから隠れた人気がある。花香はおちんちんへの好奇心を隠しながらも、視線がつい男子たちに向けられる。

弥奈は、「うわー！男子が全員全裸！？」と嬉しそうに声を上げるが、すぐに「でも、ちょっと恥ずかしいかも…」と付け加える。弥奈は男子たちの方を見て、興奮を隠しきれずに赤らめた顔で笑う。

運動神経抜群でショートカットの可愛い遥香は、水泳部のハイレグの際どい水着を着ていて、男子たちの視線を集める。「男子がかわいそう」と言いながらも、内心では「ちょっと

気になる...」と思っている。彼女の水着はハイレグのラインが彼女のスリムな体を強調し、男子たちの視線を引きつける。拓哉は彼女の水着に目をやり、「遥香の水着、ちょっとエロいな...」と内心で思っていた。遥香の存在が、男子たちの心をざわつかせる。

「さあ、男子は水着を脱いで。」先生の声に、男子たちは重い足取りで動き出す。

まず拓哉が水着を脱ぎ始める。青い水着の端を慎重に持ち、少しずつ下ろす。女子たちの視線が集まり、彼は一瞬手を止める。「女子が見てる...」と心の中で呟きながらも、覚悟を決めて水着を完全に下ろす。彼のおちんちんが露わになると、女子たちはその様子に内心ざわめく。女子達が「きゃー！」と悲鳴を上げる。「皮が被ってるね」とあやが美咲にささやく。拓哉は羞恥心に「これ、恥ずかしすぎる...」と呟く。羞恥心からか、顔は真っ赤で、視線を逸らす。皮の被ったおちんちんはぷっくりと丸みを帯び、先端は少しだけピンク色が覗いている。

和希は背中を向け、早々に水着を脱ぎ終える。脱ぎ終わると、彼のおちんちんが露わになる。「和希の、細いね」と美咲が友達にささやく。「でも、かわいいかも」とひかりが笑う。「和希の、全部包まれてる」とあやがささやく。和希は「見ないでくれよ...」と小声で呟く。女子たちは「和希のおちんちんだ...」と興味を示す。「細いけど、かわいい」とささやき声が交錯する。「和希の、ちょっと短い？」とあやがささやく。和希は顔を背けながらも、女子たちの視線を感じている。彼のおちんちんは細く、先端の皮が完全に被り、まるで子供のようだ。